

僕たちのできる社会貢献

恵庭市立柏陽中学校 3年 村田 陸仁

最近日本でワクチンの接種が始まった。僕の祖母も早速受けることになった。僕はふと、ワクチンを打つのにどれくらいお金がかかるのだろうと疑問に思ったので祖母に尋ねてみた。すると祖母は、

「国が負担してくれているから、お金はかからないの。みんなの税金のおかげなんだよ。」

と教えてくれた。今思えば、僕がけがをして病院に行ったときも、ほとんどの医療費は国が負担していると母が言っていた。僕は驚きとともに、自分や家族が納める税金がこのように、社会のために使われていることに感銘を受けた。

国民の三大義務である「納税。」それは、僕たちのできる小さいながらも大きな社会貢献なのではないだろうか。

先日、日本は台湾やベトナムに多くのワクチンを無償寄付した。もちろんこれにも税金が使われており、賛否両論あった。しかし僕個人としてはとてもうれしかった。僕たちの納める税金が、多くのワクチンへと姿を変え、国境を超えて困っている人々を助けているのだ。この台湾やベトナムはいずれも、以前日本が災害にあったときに助けてくれていた国だ。だから日本はそのお返しとして寄付したのだ。僕はそんな国同士の善意ともいえるやりとりにただただ感動した。

国際社会における僕らのできることに限りがある。しかし、国が行っているこうした寄付や支援は僕ら国民を代表していると考えてはどうだろうか。日本が社会に貢献することはすなわち、税を通して支えている僕たち国民一人一人が社会に貢献することだ、と。確かに個人の納める税金では何もできないかもしれない。でもひとたび1千万人、1億人と合わされば多くのことが可能になり、命をも救うことができるかもしれない。

もちろん、税金は日本国内の復興や整備、国の運営のためにある。身近なものだと、学校の教材、橋や道路などの交通施設から意外なものでは宇宙産業などの化学(科学)や医療の発展にも使われていたりする。こんな幅広く使われている税金は、どれも僕たちの未来をより良いものにするためにあるのだ。

僕は、テレビや授業で税金が国のために使われているのは何となく知っていた。でも税を納めることに対し、人はその意義まで考えなければ、ただ目先のお金が減ったという事実マイナスイメージを持ってしまう。そこで少し発想を変え、「税を通して自分は社会に貢献しているんだ」「国境を越えて繋がっているんだ」と考えるとワクワクしてこないだろうか。コロナ禍において国際社会である今、僕たち一人一人が手を取り合って生きていかなければならない。その第一歩として、僕は「税金」を通して貢献したいと思う。